

保有する病棟と機能区分の選択状況(2014(平成26)年7月1日時点の機能)

病床の機能区分	病棟名
高度急性期	
急性期	
回復期	
慢性期	医療療養病棟
無回答	

保有する病棟と機能区分の選択状況(6年が経過した日における病床の機能の予定)

病床の機能区分	病棟名
高度急性期	
急性期	
回復期	
慢性期	医療療養病棟
無回答	

分野ごとの情報

◆基本情報
(職員配置、届出の状況など)

- ・病床の状況
- ・診療料
- ・入院基本料・特定入院料及び届出病床数
- ・DPC医療機関群の種類
- ・救急告示病院、二次救急医療施設の告示・認定の有無
- ・在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出状況
- ・職員数の状況
- ・退院調整部門の設置状況
- ・医療機器の台数

◆患者の入退院等の状況

- ・入院患者の状況(年間)
- ・入院患者の状況(月間/入院前の場所・退院先の場所の状況)
- ・退院後に在宅医療を必要とする患者の状況
- ・看取りを行った患者数

◆医療内容に関する情報
(手術、リハビリテーションの実施状況など)

- ・手術の状況
- ・がん、脳卒中、心筋梗塞、分娩、精神医療への対応状況
- ・重症患者への対応状況
- ・救急医療の実施状況
- ・急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況
- ・全身管理の状況
- ・リハビリテーションの実施状況
- ・長期療養患者の受入状況
- ・重度の障害児等の受入状況

(留意事項)

○公表している項目の中には、診療報酬制度上で定められた診療行為の定義に従って集計した項目が多くありますが、その項目の解説については、医療関係者以外の方にも分かりやすい表現とする趣旨で記載しているため、診療報酬制度上の定義を詳細には記載していない場合があります。

○また、公表している項目の中には、個人情報保護の観点から、1以上10未満の値を「*」で秘匿している項目があります。

◆基本情報（職員配置、届出の状況など）

病床の状況

			施設全体	医療療養病棟 慢性期
			(項目の解説)	
一般 病床	許可病床	医療機関の病床(ベッド)は、法律(医療法)の許可を得た上で設置することされており、許可を受けた病床のうち、過去1年間に実際に患者を受け入れた病床数を稼働病床数として示しています。 また医療法では、病床のうち、主として長期にわたり療養を必要とする患者が入院するための病床を療養病床と呼んで区分しています。 療養病床の中には、医療保険を適用した医療サービスを提供するのではなく、介護保険を適用した介護サービスを提供する病床もあります。前者は医療療養病床、後者は介護療養病床と呼んでいます。	0床	0床
	稼働病床		0床	0床
療養 病床	許可病床		28床	28床
	うち医療療養病床		28床	28床
	稼働病床		24床	24床
	うち医療療養病床		24床	24床
上記のうち医療法上の経過措置に該当する病床数		0床	0床	

診療科

		施設全体	医療療養病棟 慢性期
		(項目の解説)	
主とする診療科		5割以上の患者を診療している診療科を、主とする診療科として示しています。5割を超える診療科がない場合は、上位3つの診療科を示しています。	-
	複数ある場合、上位3つ		内科
	外科		
	整形外科		

入院基本料・特定入院料及び届出病床数

		施設全体	医療療養病棟 慢性期
(項目の解説)			
算定する入院基本料・特定入院料	入院基本料・特定入院料とは、入院時の基本料金に該当する点数ですが、種類によっては基本料金だけでなく、一定の検査や薬の費用などが包括されている場合もあります。病床を利用する患者の状態や職員の配置状況に応じて入院1日あたりの点数が設定されていて、様々な区分があります。この項目は、医療機関において、どの入院基本料・特定入院料の病床がいくつ設定され(届出病床数)、実際にどれだけの患者にその入院料が適用されているか(レセプト件数)を示	療養病棟入院基本料2	
届出病床数		28床	
病室単位の特定入院料		-	
届出病床数			

※入院基本料・特定入院料ごとのレセプト件数

一般病棟7 対1入院基本料	0件	特定機能病院一般病棟7対1入院基本料	0件	救命救急入院料1	0件	小児特定集中治療室管理料	0件	地域包括ケア病棟入院料1	0件	特殊疾患入院医療管理料	0件
一般病棟10 対1入院基本料	0件	特定機能病院一般病棟10対1入院基本料	0件	救命救急入院料2	0件	新生児特定集中治療室管理料1	0件	地域包括ケア病棟入院料2	0件	小児入院医療管理料4	0件
一般病棟13 対1入院基本料	0件	特定機能病院特定入院基本料	0件	救命救急入院料3	0件	新生児特定集中治療室管理料2	0件	特殊疾患病棟入院料1	0件	亜急性期入院医療管理料1	0件
一般病棟15 対1入院基本料	0件	専門病院7対1入院基本料	0件	救命救急入院料4	0件	総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎)	0件	特殊疾患病棟入院料2	0件	亜急性期入院医療管理料2	0件
一般病棟特別入院基本料	0件	専門病院10対1入院基本料	0件	特定集中治療室管理料1	0件	総合周産期特定集中治療室管理料(新生児)	0件	緩和ケア病棟入院料	0件	地域包括ケア入院医療管理料1	0件
一般病棟特定入院基本料	0件	専門病院13対1入院基本料	0件	特定集中治療室管理料2	0件	新生児治療回復室入院医療管理料	0件	特定一般病棟入院料1	0件	地域包括ケア入院医療管理料2	0件
一般病棟入院基本料(療養病棟入院基本料1の例により)	0件	専門病院特定入院基本料	0件	特定集中治療室管理料3	0件	小児入院医療管理料1	0件	特定一般病棟入院料2	0件		
療養病棟入院基本料1	0件	障害者施設等7対1入院基本料	0件	特定集中治療室管理料4	0件	小児入院医療管理料2	0件	特定一般病棟入院料(地域包括ケア入院医療管理)	0件		
療養病棟入院基本料2	27件	障害者施設等10対1入院基本料	0件	ハイケアユニット入院医療管理料1	0件	小児入院医療管理料3	0件	特定一般病棟入院料(療養病棟入院基本料1の例により)	0件		
療養病棟特別入院基本料	0件	障害者施設等13対1入院基本料	0件	ハイケアユニット入院医療管理料2	0件	回復期リハビリテーション病棟入院	0件	短期滞在手術等基本料2	0件		
		障害者施設等15対1入院基本料	0件	脳卒中ケアユニット入院医療管理料	0件	回復期リハビリテーション病棟入院	0件	短期滞在手術等基本料3	0件		
		障害者施設等特定入院基本料	0件			回復期リハビリテーション病棟入院	0件				

DPC医療機関群の種類

(項目の解説)		施設全体	医療療養病棟 慢性期
DPC医療機関群の種類	DPC制度とは、急性期の入院医療を担う医療機関において、患者に対し、入院日数に応じた1日あたり定額の医療費を請求する制度です。この項目は、DPC制度の対象となる病院の特性を示すもので、特性や疾患等に応じて1日あたりの医療費の設定が異なります。Ⅰ群が大学病院本院、Ⅱ群が大学病院本院に準じる病院、Ⅲ群がそれ以外の病院であることを示します。	DPCではない	

救急告示病院、二次救急医療施設の告示・認定の有無

(項目の解説)		施設全体	医療療養病棟 慢性期
救急告示病院の告示の有無	救急告示病院とは、事故や急病等による救急患者を救急隊が緊急に搬送する医療機関として、都道府県知事が認めた病院です。また、救急患者のうち、入院医療が必要な重症な救急患者を休日や夜間に受け入れる医療機関を二次救急医療施設といいます。	有	
二次救急医療施設の認定の有無		無	

在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出状況

(項目の解説)		施設全体	医療療養病棟 慢性期
在宅療養支援病院の届出の有無	在宅療養支援病院とは、24時間往診が可能な体制を確保し、また訪問看護ステーションとの連携により24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保している病院のことです。	無	
在宅療養後方支援病院の届出の有無	在宅療養後方支援病院とは、在宅医療を受けている患者の急変時に備え、緊急入院を受け入れるための病床を確保している病院です。	無	

看取りを行った患者数

※在宅療養支援病院、在宅療養支援後方病院の届出を行っている病院のみが報告する事項です。

		施設全体	医療療養病 棟 慢性期
(項目の解説)			
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関以外での看取り数(年間)	患者の死期まで見守り臨終に付きそうことを看取りといいません。値は、平成25年7月から平成26年6月までの1年間に在宅療養を担当し、看取りまで支援した患者について、その看取りを行った場所や数を示しています。	0人	
うち自宅での看取り数		0人	
うち自宅以外での看取り数		0人	
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関での看取り数(年間)		0人	
うち連携医療機関での看取り数		0人	
うち連携医療機関以外での看取り数		0人	

[TOPへ戻る](#)

◆医療内容に関する情報（手術、リハビリテーションの実施状況など）

手術の状況

		(項目の解説)	施設全体	医療療養病棟 慢性期	
手術総数		手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	0件		
臓器別の状況	皮膚・皮下組織		0件		
	筋骨格系・四肢・体幹		0件		
	神経系・頭蓋		0件		
	眼		0件		
	耳鼻咽喉		0件		
	顔面・口腔・頭部		0件		
	胸部		0件		
	心・脈管		0件		
	腹部		0件		
	尿路系・副腎		0件		
	性器		0件		
	歯科		0件		
	全身麻酔の手術件数		全身麻酔を用いて手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	0件	
	臓器別の状況	皮膚・皮下組織		0件	
筋骨格系・四肢・体幹			0件		
神経系・頭蓋			0件		
眼			0件		
耳鼻咽喉			0件		
顔面・口腔・頭部			0件		
胸部			0件		
心・脈管			0件		
腹部			0件		
尿路系・副腎			0件		
性器			0件		
歯科			0件		
胸腔鏡下手術			胸部を切り開くことはせず、胸部に開けた小さな穴から、胸部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「きょうきょうかしゅじゅつ」と読みます。値はこの手術を行った患者数です。	0件	
腹腔鏡下手術			腹部を切り開くことはせず、腹部に開けた小さな穴から、腹部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「ふくくきょうかしゅじゅつ」と読みます。値はこの手術を行った患者数です。	0件	
内視鏡手術用支援機器加算		内視鏡手術ロボットを用いて前立腺がん手術を行った患者数です。	0件		

救急医療の実施状況

		施設全体	医療療養病棟 慢性期
(項目の解説)			
院内トリアージ実施料	夜間や休日、深夜に受診した救急患者に対し、その緊急度に応じて、診療の優先順位付け(院内トリアージ)を行っていることを示す項目です。値はトリアージを行った患者数です。	0件	
夜間休日救急搬送医学管理料	夜間や休日等の救急搬送に対応していることを示す項目です。値は、深夜、休日等に救急車や救急医療用ヘリコプター等で搬送され、診療を行った患者数です。	0件	
精神科疾患患者等受入加算	夜間や休日等に救急搬送される急性薬物中毒の患者に対応していることを示す項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、過去6月以内に精神科の受診歴がある患者や、急性薬物中毒(アルコール中毒は除く)と診断された患者数です。	0件	
救急医療管理加算1及び2	意識障害、昏睡等の重篤な状態の患者の緊急入院を受け入れていることを示す項目です。値は休日又は夜間に緊急入院し、救急医療を行った患者数です。	0件	
在宅患者緊急入院診療加算	在宅での療養中に病状が急変し、入院が必要となった場合に、患者の意向を踏まえた医療が引き続き提供されるよう、他の医療機関と連携する取組を行っていることを示す項目です。値は、他の医療機関の求めに応じて緊急入院を受け入れた患者数です。	0件	
救急搬送患者地域連携紹介加算	医療機関間の連携により、救急医療機関の負担を軽減し、緊急入院を円滑に受け入れるための取組を行っていることを示す項目です。値は、緊急入院で受け入れた患者を、連携先の医療機関に転院させた人数です。【関連：救急搬送患者地域連携受入加算】	0件	
休日に受診した患者延べ数	休日(日曜、祝日、年末年始)に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	21人	
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数		0人	
夜間に受診した患者延べ数	夜間(午後6時から午前8時までの間(土曜日の場合は、正午から午前8時までの間))に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	*	
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数		0人	

救急車の受入件数	救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数です。	0件
救命のための気管内挿管	気管内挿管は、気道確保を行うためのチューブ等を口や鼻から挿入する処置です。値は救命措置として気管内挿管を行った患者数です。	0件
体表面ペースング法又は食道ペースング法	体表面・食道ペースングは、胸部または食道内に電極をおき、電極を介して心臓を電気刺激する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件
非開胸的心マッサージ	非開胸的心マッサージは、胸部を開く等の手術を伴わない、一般的な心臓マッサージを行う処置です。値は処置を行った患者数です。	*
カウンターショック	カウンターショックは、心停止した患者に対し、AEDや専門の医療機器等を用いて、心臓に電気ショックを与え、正常な状態に戻す処置です。値は処置を行った患者数です。	0件
心膜穿刺	心膜穿刺は、心臓を覆う心膜に針等を刺し、心臓に貯まった水を排出する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件
食道圧迫止血チューブ挿入法	食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に対し圧迫止血の目的でチューブを挿入する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件
地域連携診療計画管理料	大腿骨頸部骨折や脳卒中の患者について、転院・退院後の治療を担う地域の医療機関や介護施設が治療計画を共有し、連携して診療・ケアに取り組んでいることを示す項目です。値は、診療計画のもと、他の医療機関や介護サービス事業所に転院・退院させた患者数です。【関連:地域連携診療計画退院時指通料(Ⅰ)】	0件

急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況

(項目の解説)		施設全体	医療療養病棟 慢性期
救急・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算	急性期の治療を終え、状態がある程度安定した患者や、自宅・介護施設等での療養中に発熱などにより、入院が必要となった患者を受け入れる取組を行っていることを示す項目です。値はこうした患者を受け入れた数です。	*	
救急搬送患者地域連携受入加算	医療機関間の連携により、救急医療機関の負担を軽減し、緊急入院を円滑に受け入れるための取組を行っていることを示す項目です。値は、他の救急医療機関に緊急入院した患者の転院を受け入れた人数です。【関連：救急搬送患者地域連携紹介加算】	0件	
地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)	大腿骨頭部骨折や脳卒中の患者について、転院・退院後の治療を担う地域の医療機関や介護施設が診療計画を共有し、連携して診療・ケアに取り組んでいることを示す項目です。値は、診療計画のもと、連携先の医療機関から患者を受け入れ診療を行った人数です。【関連：地域連携診療計画管理料】	0件	
退院調整加算1(一般病棟入院基本料等)	退院後に十分な介護を提供できる体制がない等、退院が困難な状況にある患者に対して、社会福祉士等が退院に向けた計画を策定し、必要な支援をしていることを示す項目です。値は退院支援を行った患者数です。	0件	
退院調整加算2(療養病棟入院基本料等)	退院後に在宅で療養する患者について、入院している医療機関の医師等が退院後の在宅医療を担う医師や訪問看護事業所等の看護師等と連携し、共同で患者に指導や説明を行っていることを示す項目です。値は、患者が入院している医療機関が、指導や説明を行った患者数です。	0件	
介護支援連携指導料	退院後に導入することが望ましい介護サービス等について、入院中の医療機関と介護支援専門員(ケアマネージャー)が連携し、共同で指導や説明を行っていることを示す項目です。値は指導や説明を行った患者数です。	0件	
退院時リハビリテーション指導料	退院の際に患者に対し、病状や退院後に生活する家屋の構造、介護力等を考慮し、リハビリテーションの観点から指導や説明を行っていることを示す項目です。値は指導や説明を行った患者数です。	0件	
退院前訪問指導料	入院期間が1か月を超えると見込まれる患者に対し、円滑に退院できるよう、患者の家に訪問した上で、その病状や退院後に生活する家屋の構造、介護力等を考慮し、在宅での療養に必要な指導を行っていることを示す項目です。値は指導を行った患者数です。	0件	

全身管理の状況

(項目の解説)		施設全体	医療療養病棟慢性期
中心静脈注射	中心静脈注射は、薬剤や栄養を長時間、安定的に供給する目的等で、血液量が多く流れも速い心臓近くにある太い静脈(中心静脈)に注射する行為です。値はこの注射を行った患者数です。	0件	
呼吸心拍監視	呼吸心拍監視は、重篤な心機能障害や呼吸機能障害をもつ患者に対し、その呼吸や心拍数の状況を継続的に監視する検査です。値はこの検査を行った患者数です。	0件	
酸素吸入	酸素吸入は、呼吸器疾患等で酸素が欠乏した状態の患者に対し、高濃度の酸素を吸入させる処置です。値はこの処置を行った患者数です。	0件	
観血的動脈圧測定(1時間を越えた場合)	観血的動脈圧測定は、重症患者の血圧観察のために、動脈に管を挿入し、持続的に血圧を測定する検査です。値はこの検査を行った患者数です。	0件	
ドレーン法、胸腔若しくは腹腔洗浄	ドレーン法は、手術後等の患者に対して、脳腹や腹部等に管を入れ、体内に溜まった消化液、膿、血液や浸出液などを体外に排出する処置です。胸腔・腹腔穿刺は、脳腹、腹部に針を刺し、洗浄、注入および排液をする処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。	0件	
人工呼吸(5時間を越えた場合)	人工呼吸は、呼吸の力が弱くなった患者に対し、機器を使って呼吸の補助をおこない、過剰にたまった二酸化炭素を排出し、酸素の取り込みを促す処置です。値は5時間以上継続的にこの処置を行った患者数です。	0件	
人工腎臓、腹膜灌流	人工腎臓は、透析機器(人工膜)を通すことによって、血液中の老廃物や余分な水分を取り除き血液を浄化する処置です。腹膜灌流(ふくまくかんりゅう)は、患者の腹膜(腹部の臓器を覆う膜)を介して血液中の余分な水分や老廃物が透析液側に移動する処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。	0件	
経管栄養カテーテル交換法	経管栄養カテーテル交換法は、口からの栄養摂取が難しく、胃や食道にカテーテル(細い管状の医療器具)を挿入し、直接栄養を送り込む処置を行っている患者について、そのカテーテルを交換する処置です。値はこの処置を行った患者数です。	0件	

		施設全体	医療療養病棟慢性期
(項目の解説)			
リハビリテーションを要する状態にある患者割合	入院患者のうち、リハビリテーションが必要な状態の患者の割合です。		
平均リハビリテーション単位数(1患者1日当たり)	上記の患者に対し行ったリハビリテーションの平均的な量を示す値です。20分実施した場合を1単位とみなします。		
過去1年間の総退棟患者数	平成25年7月から平成26年6月までの1年間に、病棟から退棟した患者の数と、日常生活機能評価に応じた患者の数です。	0人	
うち入院時の日常生活機能評価10点以上の患者数	日常生活機能評価とは、寝返り、起き上がりなど日常生活で行う基本的な動作について、「自分でできる」「できない」を評価する指標です。自力での動作が難しいほど、点数が高くなります。	0人	
うち退棟時の日常生活機能評価が、入院時に比較して4点以上(※)改善していた患者数		0人	
※回復期リハビリテーション病棟入院料2または3の場合は3点以上		0人	

長期療養患者の受入状況

	(項目の解説)	施設全体	医療療養病棟慢性期
療養病棟入院基本料 1. 2 (A~I)	療養病棟は、主として、長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病棟です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	27件	
褥瘡評価実施加算(療養病棟入院基本料、有床診療所療養病床入院基本料)	褥瘡(床ずれ)は、寝たきりなどにより、身体の一部が長時間にわたりベッドと接触することで血行が悪くなり、皮膚組織等が壊死する症状です。この項目は、褥瘡が特に生じやすい状態にある患者について、褥瘡の予防や処置の観点から必要な取組を行っていることを示します。値はそのような状態にある患者数です。	0件	
重度褥瘡処置	この項目は重度化した褥瘡に対してケアを行っていることを示しています。値はこのようなケアを行った患者数です。	0件	
重症皮膚潰瘍管理加算	皮膚潰瘍は、皮膚や粘膜が傷ついた際に、糖尿病等の疾患による血行不全等のために傷が治らず、組織が壊死する症状です。この項目は、重度な皮膚潰瘍に対して計画的、継続的なケアを行っていることを示します。値はケアを行った患者数です。	0件	

重度の障害児等の受入状況

	(項目の解説)	施設全体	医療療養病棟慢性期
難病等特別入院診療加算	難病患者や感染症患者等の入院を受け入れていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	
特殊疾患入院施設管理加算	重度の障害者、難病患者等の入院を多く受け入れている病棟であること(全入院患者の約7割)を示す項目です。値はその患者数です。	0件	
超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	出生時から小児期までに生じた障害により、現在も非常に重症な状態が続く患者を受け入れていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	
難病患者リハ、障害児(者)リハ(再掲)	脳性麻痺、発達障害等の患者に対して、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件	
強度行動障害入院医療管理加算	知的障害や自閉症等であって、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を繰り返す行特徴のある患者の入院医療を行っていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件	

[TOPへ戻る](#)